

研究代表者氏名	河 上 裕			研究組織	10人	
所属機関・部局・職	慶應義塾大学・医学部・教授			所属機関所在地	新宿区	
研究課題名	消化器癌に対する新しい免疫療法と診断法の開発					
研究の概要等	<p>本研究では、各種分子生物学的手法を用いて消化器癌抗原を体系的に単離し、免疫学的および癌細胞生物学の解析を行い、腫瘍マーカーとして診断法に、また、標的抗原として免疫療法に有用な分子を同定することを目的とする。我々が今まで10年以上かけて悪性黒色腫を対象として実施してきたヒト癌抗原の単離とその臨床応用の研究法を、未だ十分に研究が進んでいない消化器癌抗原の解析に応用する。具体的には、DNAChipなどの各種網羅的遺伝子発現解析法や癌患者T細胞や抗体を用いたcDNA発現クローニング法を駆使して、癌精巢抗原と呼ばれる癌抗原群などの臨床応用が期待される癌抗原を同定し解析する。次に同定した癌抗原分子とHLAテトラマーなどのT細胞解析技術を用いて、ヒト癌細胞に対する免疫応答の詳細な解析を行い、免疫療法の可能性を細胞・分子レベルで科学的に検討する。最終的には、臨床試験を通じて、癌に対する新しい診断法と免疫療法の開発をめざす。消化器癌において、各種手法を駆使した分子生物学的・免疫学的研究および臨床的研究が総合的に行われた例は、世界的にもほとんどない。</p>					
当該研究課題と関連の深い論文・著書（研究代表者のみ）	<p>1. Kawakami Y, et al. (計8名) Cloning of the gene coding for a shared human melanoma antigen recognized by autologous T cells infiltrating into tumor. Proc.Natl.Acad.Sci.USA., 91:3515-1519, 1994.</p> <p>2. Rosenberg SA, Kawakami Y. et al. (計16名) Immunologic and therapeutic evaluation of a synthetic peptide vaccine for the treatment of patients with metastatic melanoma. Nat. Med. 4:321-327, 1998.</p>					
研究期間	平成14年度～18年度（5年間）					
研究経費 （15年度以降は内約額）	平成14年度 千円 23,000	平成15年度 千円 16,600	平成16年度 千円 14,900	平成17年度 千円 14,900	平成18年度 千円 14,900	合計 千円 84,300